平成２８年度 新潟市潟環境研究所 第６回定例会議（概要）

日時：平成２９年１月２６日（木）
場所：市役所本館 - 対策室１

■会議概要

１　報告及び情報提供

・とやの潟ウインターキッチン２０１７（新潟市南商工振興会）

２　講義

３年間の調査・研究活動の総括　（井上信夫 協力研究員・太田和宏 協力研究員）

【井上信夫 協力研究員】

〇平成 26 年度「越後平野の魚類相全体について」

・これまで確認された淡水魚の生活地、原産地を区分して、干拓で消滅した鎧潟を含む代表的な6湖沼の魚類相を調査した。

・潟の調査、基礎資料を含めて調べた中では、67 種の魚類が確認された。純淡水魚が 41 種類（63 パーセント）その内 22 種はもともと新潟にいなかった移入種。純淡水魚はほとんど全部が市のレッドリストに載っているような、絶滅危惧に近いような状態。

〇平成 27 年度は上堰潟の魚の調査

・漁具としては定置網、刺し網、さで網、玉網、亀トラップを設置して行った結果、17 種が確認できた。外来魚が多く、種類数で行くと 59 パーセント、捕獲した数で行くと 76 パーセント。

・ブラックバスやブルーギル、オイカワが確認された。オオマリコケムシという寒天の固まりのようなものが繁殖している。

〇平成 28 年度はじゅんさい池の歴史と現状

・じゅんさい池は貴重な砂丘湖。周辺の宅地開発、都市公園化などによって急激に環境が変わっていて、半世紀ほどの間に変貌している。さらに、この 10 年くらいの間にたくさんのコイや亀や何かが持ち込まれて、生き物ががらっと変わった。おそらく、環境、生物相が一番変わっているのはじゅんさい池ではないか。

・2004 年9月に調査したときは、西池の水面の上は全部じゅんさいの葉っぱの間からタヌキモの花が出ていて、横から見ると一面に黄色く見えた。こういう風景は、実は、今、全く見られなくなった。サンショウモも絶滅危惧種で、こういうものがこの数年後に消滅していった。

・2015 年の調査では、西池に黒ゴイとか錦鯉が群泳していた。今現在たくさん泳いでいるが、2003 年には全然いなかった。

・越後平野の湖沼では意図的な放流とかペットの遺棄、逸出によって外来生物にどんどん置き換わっている。

・今後の活動として考えていることは、ブルーリスト（外来種リスト）を作って、その中でのレベルを分けてみようと思う。待ったなしに駆除しなければならないものから注意を要するものから目をつぶっていいものからさまざまいる。そして、それを市民にアピールしていく必要があると思う。かわいければ、きれいならいいという感覚の人が多すぎるので、そうではないだろうということを説得していく必要があると思っている。

・もう一つのテーマとしては、漁労文化の記録をしたい。歴史博物館でも、民俗の立場のほうでもたくさん記録されているが、自然科学の立場で見てみたいと思っている。昔の方の話、前に聞いたことがあるが、それをもう一度取りまとめたいと思う。

【太田和宏　協力研究員】

〇平成 26 年度「新潟市西区に関する潟と人の共存（里潟）について」

・昔の絵図や明治時代の地図を中心に、現在の地図とかつて西区にあった潟の大体の位置関係を示した地図を作った。地域のイベント等で展示し、西区の住民に見てもらう機会を作った。
・佐潟の利用方法について、地域に残る史料『官有沼地ニ関スル綴』などや聞き取りをもとに明らかにした。

〇平成 27 年度「『山当て』による潟とその周辺集落の〝鎮め〟について」

・福島潟、鳥屋野潟、佐潟、上堰潟周辺の集落と潟が、風水上どのように関係しているのか、「山当て」と呼ばれる手法を用いて調べた。潟周辺の集落に点在する社寺が意図的に配置され、潟を鎮めることに用いられた。
・日本人独自の風水思想ということで山当てというものが生み出された。特に日本の場合は神社とお寺を計画的に配置してそこに道路を引くとか、集落を作るという方法を使っている。
・神社と神社を結ぶ直線で街道の直線とか道路を決めているのが江戸時代の都市（及び集落）計画の基本。そのような視点から見ると、まさに赤塚から松野尾地区の街道も含め、旧北国街道は全て山当ての線に基づいて道路が引かれている。

〇平成 28 年度「赤塚地域における地域教育～潟を活かした地域教育の事例として～」

・西区赤塚中学校で地域教育コーディネーターをつとめ、佐潟を中心に総合学習に潟をとりいれた活動をしている。
・地域住民の〝学びの拠点づくり〟活動を紹介し、地域住民自身による地域教育の重要性について考察した。生徒たちも地域住民も何気なく暮らしているところに砂丘や潟、歴史、文化、食、人材といった魅力や資源がある。それらを再認識するうえで、地域教育は大事なのではないか。

３　（仮称）潟環境研究所活動報告書に関する意見交換について

【説明要旨】

〇大学生へのアンケート調査結果について
〇提言の素案についての意見交換
〇具体的取り組み案についての意見交換

【提言素案についての主な意見】

・めざす姿として「ラムサール条約都市」を掲げるなら、「ラムサール条約とは何か」についても解説が必要。
・潟に関わる生き物の視点を盛り込んで欲しい。少なくとも現状の把握と課題についてはおさえてほしい。
・「潟の生物多様性を守る」、「自然環境を復元する」ということを明記してもよいのではないか。
・民俗分野からみると潟と人との関わりは連綿と続いているというよりは、劇的に変化しているというほうがあたっている。潟と人との関わりは変化するものだということも踏まえて、何をどう「守る」のか考えなければならない。